

ドクダミ

(学名: *Houttuynia cordata*)

[ドクダミ科ドクダミ属]



ドクダミは、直射日光が遮られる場所や、一日の内に2～3時間しか日が当たらないような陰地を好んで生育します。道端や住宅周辺などにも見られる高さ15～30cmほどになる多年草です。

和名の由来は、毒や痛みに効く、毒を矯める(正しく直す)ことから「毒矯めー毒矯みーどくだみ」と転じたものだと言われています。また10種の薬効があるという意味で、十薬とも呼ばれます。

只見町では、6～7月に白い花を咲かせるドクダミの姿が、庭先や山裾、道端などで普通に見られます。

ドクダミの花の白い部分は、実は花弁ではありません。4枚の白い花弁のように見えるものは、総苞弁と呼ばれる蕾を包む葉の一種です。中心の花穂にびっしりとつく黄色い小さなものが1つ1つの花で、花弁はありません。

全体に独特の臭気があり、群生することが多いドクダミは、敬遠されることも少なくありませんが、昔から、消炎、利尿、緩下など

の民間薬として広く利用されています。

只見町でも、蓄膿症の時には、生の葉を良く揉んだものを鼻の中に入れ、傷が化膿した時には、困炉裏の火床に埋めて熱でやわらかくした葉を化膿した箇所には貼りつけるなど、消炎の薬として利用されています。また、生のドクダミを入浴剤として風呂に入れると、関節炎に良いとされています。

〈企画展示〉

「絶滅危惧種 ヒメサユリのすべて」

期 間 4月26日(土)～7月21日(月)まで

ヒメサユリの生態と分布を写真と解説パネルで紹介しています。

好評につき会期が延長となりました。新規の展示も用意しますので、是非ご来館ください。

次回企画展

「ユネスコエコパークが描く只見の未来」

期 間 8月～10月の展示を予定

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

山開き

只見町の要害山(705m) 蒲生岳(828m) 浅草岳(1,586m)が5月～6月にかけて山開きとなりました。

それぞれの山の登山参考タイムは、要害山が3時間、蒲生岳が3時間30分、浅草岳が9時間となっておりますので、体力に合わせた登山を楽しんで頂ければと思います。

なお、会津朝日岳は林道工事の為今年も登山禁止となっておりますのでご注意ください。



▲浅草岳の山開き当日はあいにくの雨となりましたが、多くの方が登山を楽しみました。